

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和6年度1月号

○ 概要

- (1) 令和6年度1月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,987億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+2.9%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,547円（伸び率+0.6%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,926億円（伸び率+5.8%）、薬剤料が5,048億円（伸び率+1.8%）、薬剤料のうち、後発医薬品が1,024億円（伸び率+7.3%）であった。（→P.4,5）

- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,335円（伸び率▲2.1%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.86種類（伸び率+1.6%）、26.8日（伸び率+0.6%）、70円（伸び率▲4.2%）であった。（→P.8,9）

- (3) 内服薬の薬剤料3,904億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+6億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の738億円（伸び幅+21億円）で、伸び幅が最も高かったのは52 漢方製剤の+32億円（総額157億円）であった。（→P.13～19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,904 億円 (+6 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(738 億円)	21 循環器官用薬 (537 億円)	42 腫瘍用薬 (526 億円)
0 歳以上 5 歳未満	17.7 億円 (+0.1 億円)	44 アレルギー用薬 (4.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.1 億円)	61 抗生物質製剤 (2.5 億円)
5 歳以上 15 歳未満	100.1 億円 (+0.4 億円)	44 アレルギー用薬 (30.9 億円)	11 中枢神経系用薬 (26.9 億円)	62 化学療法剤 (9.1 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,492 億円 (+9 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(278 億円)	11 中枢神経系用薬 (269 億円)	42 腫瘍用薬 (173 億円)
65 歳以上 75 歳未満	780 億円 (▲41 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(178 億円)	42 腫瘍用薬 (140 億円)	21 循環器官用薬 (122 億円)
75 歳以上	1,514 億円 (+38 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(274 億円)	21 循環器官用薬 (252 億円)	42 腫瘍用薬 (210 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,547円（伸び率+0.6%）で、最も高かったのは北海道（11,406円（伸び率▲0.8%））、最も低かったのは佐賀県（8,365円（伸び率+3.5%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは福岡県（伸び率+3.9%）、最も低かったのは石川県（伸び率▲2.1%）であった。（→P.31～32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	90.5 %	+5.2 %
薬剤料ベース	20.3 %	+1.0 %
後発品調剤率	83.8 %	+2.2 %
（参考）数量ベース（旧指標）	62.1 %	+1.8 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+7.3 %	+25.1 % (10 歳以上 15 歳未満)	▲0.8 % (70 歳以上 75 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.3 %	28.5 % (100 歳以上)	13.7 % (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	90.5 %	93.0 % (100 歳以上)	89.3 % (80 歳以上 85 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	861 億円 (+53 億円)	21 循環器官用薬 (253 億円)	11 中枢神経系用薬 (149 億円)	23 消化器官用薬 (97 億円)
0 歳以上 5 歳未満	7.4 億円 (+1.2 億円)	44 アレルギー用薬 (3.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.8 億円)	62 化学療法剤 (1.2 億円)
5 歳以上 15 歳未満	20.3 億円 (+3.1 億円)	44 アレルギー用薬 (11.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.8 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.1 億円)
15 歳以上 65 歳未満	310 億円 (+17 億円)	21 循環器官用薬 (70 億円)	11 中枢神経系用薬 (70 億円)	44 アレルギー用薬 (41 億円)
65 歳以上 75 歳未満	170 億円 (+1 億円)	21 循環器官用薬 (62 億円)	11 中枢神経系用薬 (21 億円)	23 消化器官用薬 (20 億円)
75 歳以上	354 億円 (+30 億円)	21 循環器官用薬 (120 億円)	11 中枢神経系用薬 (55 億円)	23 消化器官用薬 (49 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,399 円	1,815 円(北海道)	1,182 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+4.9%	+10.5 % (徳島県)	+0.6 % (鳥取県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	90.5 %	94.2 % (沖縄県)	87.9 % (東京都)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.3 %	22.4 % (山形県)	18.3 % (京都府)
後発医薬品調剤率	83.8 %	86.9 % (熊本県)	80.6 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	62.1 %	66.7 % (沖縄県)	58.9 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和6年度1月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。